

瀬戸合唱フェスティバルに参加

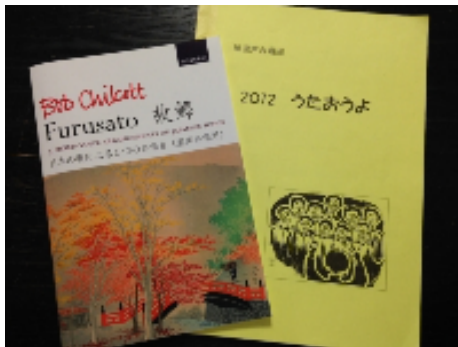
- 2014.09.30 Tuesday
- 16:11



9月14日、瀬戸市民文化センターにて瀬戸合唱フェスティバルがあり、我が団も参加しました。毎年この時期にあるイベントで、今年は2016年記念演奏会に向けて練習中のチルコットの曲集の中から紅葉、おぼろ月夜の2曲、そして7月の演奏会に歌った心に花を咲かせよう、の計3曲を歌いました。参加人数が少なかったせいか、こじんまりとした演奏、ボリュームではありましたが、先生方は「まあよかったかな、これを良しとせず、さらなるステップアップを！」とのこと。先週の練習後、宗教曲のステージの候補曲を聴き、いよいよ曲が決まります。先月の2名の方々の入団に続き、ご夫婦の入団も決まり、少しずつパワーアップしていく旭混声です。

それぞれの”Furusato”

- 2014.09.05 Friday
- 14:11



2016年の30周年記念演奏会に向けて8月から取り組んでいるチコットの曲集で、故郷、紅葉、村まつり、おぼろ月夜など日本の唱歌が新しい響きで繰り上げられます。この1か月、TVでたまたま「ふるさと」を耳にして2回涙しました。1回目は戦争が終わっても満州に残され孤児になった子供たちが日本に帰ることを夢見て歌っている場面。2回目は、24時間TVで観た「はなちゃんのみそ汁」という実在の乳癌で亡くなった音楽好きのお母さんのお話し。折に触れ、この「ふるさと」を家族で歌っていました。実は、私自身もこの曲に大きな思い出があります。大学時代の混声合唱の仲間であった親友と団の指揮者先生の還暦祝いステージのアンコールで歌ったのです。大学卒業後、教員になった私たちは、お互いが忙しくなかなかに会えなかったけれど、この演奏会に出ることでこの年は何度も練習で会い、いろんなことを話しました。「子どもから手が離れたら、また同じどこかの団で一緒に歌おう！ 近いうちに会おうね！」と軽い気持ちで別れ、次に会ったのは4か月後の12月、棺の中の彼女でした。過労・ストレスによる心筋梗塞、突然死でした。この曲は唱歌の中でおそらく一番なじみ深く、震災の年はいろんな場所で聴いたものです。演奏会に来てくださるお客さまは、きっと心の中でそれぞれのシーンを思い浮かべろずさまれることでしょう。そして、「美しい”ふるさと”を聴いたわ」というお客様の新しい歌の思い出を作ることができるよう、丁寧に練習していこう！と2年後に向けてスタートした私たちです。(写真右は我が団の愛唱歌集、過去の演奏会や打ち上げで皆が口ずさむ曲がのっていて言わば、私たち団員の歌の”ふるさと”でしょうか)